

B R I C s 市場を開拓する韓国のポスコ

～鉄鋼需要の中心は日米欧から B R I C s にシフト～

2006年 8 月27日 (日)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～要 旨～

世界的に鉄鋼需要が盛り上がるなか、韓国大手鉄鋼メーカー、ポスコが業容を拡大している。ポスコの強みは、その収益力の高さにある。2005年12月期の連結決算でみると、売上高営業利益率は27.2%、売上高純利益率は18.5%に達する。この数字は世界の鉄鋼メーカーのなかでもトップクラスで、日本の新日本製鉄やJ F E スチールを大きく上回る。

ポスコは B R I C s 戦略を加速させている。2000年代に入って、鉄鋼需要の中心が欧米や日本から B R I C s へとシフトしてきたためだ。ポスコは、市場が小さい韓国国内では成長に限界があると判断、持続的な高成長を目指して B R I C s に積極的に進出している。同社、2005年の年初に示した中期5ヵ年計画(2005年～2009年)のなかで、中国、ブラジル、インドにおける生産基地を大幅に拡充するとの方針を示した。海外投資の拡張などによって、2009年までに生産能力を現在の3050万トンから3400万トンまで引き上げ、生産能力で世界のトップ3に入ることを目指している。長期経営計画では、粗鋼生産能力を5000万トンまで引き上げる予定だ。

中国市場では、中国最大の民営鉄鋼メーカー、江蘇沙鋼集団と共同で設立した張家港浦項ステンレス会社が江蘇省に年産60万トンのステンレス生産工場を建設した。このプロジェクトは2003年9月に建設認可を得ており、2006年8月から本格的な稼働を開始している。また、福建省では、中国企業と合併で新工場を建設する計画を進めている。ただし、中国政府が、鉄鋼業界の過剰生産を懸念して、現在、外資による新工場の新設を認可していないため、この計画は停滞している。

ブラジルでは、鉄鉱石供給大手のリオドセと協力して、ブラジル南東部のマラニャン州で2009年までに年産400万トンの高炉を建設する計画を打ち出している。2010年以降は、同じ生産能力をもつ高炉をもう1基建設する予定だ。

インドでは、75億ドルの資金を投じて2010年までに年間生産能力400万トンの一貫製鉄所をオリッサ州に建設する予定だ。ポスコは、2005年8月に現地法人を設立しており、現在は、製鉄所の敷地や鉱山の土地買収を進めている。高炉が操業する際には、7000人以上の新規雇用がインドで発生する見込みとなっている。インドでは、2010年以降も、生産能力拡大投資を続け、最終的な生産規模を1200万トンまで拡張、製鉄所で使用する鉄鉱石の鉱山の開発にも着手する。ポスコは、インドに巨大な製鉄所を建設することによって、将来的には西南アジアや中東、アフリカ地域にも鉄鋼輸出を拡大させていこうと計画している。